

* バディは4人組を基本		目安時間	午前1	午前2				内容説明
<b>1. 準備・始めの説明</b>								
A	ライジヤケ・ヘルメ装着	(5分)	8:45	10:40			→	着用後のPFDの調整は浮力体験で再チェック（気温が低い場合は最後に行う）
B	バディ組確認	(2分)					→	背丈でバディを組む（ストレッチャーが一番背の高い児童へ少しきつめにセッティングで位置固定）
C	入水・浮力体験	(5分)					→	プール内に入り、背浮きで大の字や、左右回転したりなどPFDの浮力効力を体験。指導員は緩いかなどをチェック
D	カヌー乗り降り	(3分)					→	5点フィッティングの意味を説明し、指導員4名で乗降艇方法を説明
E	パドリング説明	(5分)					→	フィッティングバランス・パドル幅・フォワード・リバース・ストップ・スイープの基本操作
	累計	20分	9:05	11:00				☛ 児童には、覚えづらい専門用語はなるべく注釈を交えて伝える
<b>2. カヌー体験</b>								
F	パドリング練習1 (4分×4人組)	(16分)					→	乗艇後にフィッティングバランスを行い、その後自由に漕がせながら指導 右回り左回りなどの指示は主指導員が判断
G	パドリング再説明	(4分)					→	練習1での悪い点の指摘と、(例)パドルの引く・押す・足の使い方及びスイープの再説明
H	パドリング練習2 (3分×4人組)	(12分)					→	周回方向を決めて、漕がせる。特に回転する場所はスイープを使うように指導する ☛ パドリング再説明の内容は、主指導員とパドリング指導員に一任
	累計	52分	9:37	11:32				
<b>3. 対抗レース</b>								
I	レース説明	(1分)					→	終了後にプールサイドへ艇を上げ、パドルを立てて全員で艇番号を大きな声で伝える事を説明
J	①右回り	(14分)					→	指導員は各浮き玉場所に立ち、特にコーナーはぶつかり合わないよううまく誘導する 両サイドの浮き玉を必ず通過するように、指示及び誘導する
K	②左回り	(14分)						
	累計	81分	10:07	12:01				☛ バディが協力しあってレースする事を重要視
<b>4. お楽しみタイム</b>								
L	流れるプール等	(13分)					→	気温が低い時は、CのPFD体験を最後に行う
	累計	94+1分	10:20	12:15				☛ 区から広報で1分程。写真撮影がある場合は、お楽しみタイムを短縮
<b>終了</b>								
<b>* 補足事項【1クラス目:27名・2クラス目:27名+1名 予定】</b>								
1	バディは4人を基本とする						→	学校側には、前もって4人以下のバディ組で進めているか再確認
2	準備・始めの説明は全体で20分と見ると良い。						→	準備体操などでのスタート時間の遅れが無いように、必ず事前に再確認
3	実演は児童が使う艇及びパドルで説明する。						→	プールサイドでの説明も同様。パドルのR・Lのシールは用意して剥がれていないか事前に確認（予備も準備）
4	児童とのコミュニケーション						→	指導員のヘルメットに名前入りのガムテープを貼り、コミュニケーションを図る
5	熱中症対策						→	水筒等での水分補給は2~3回行う
6	禁止・注意事項						→	プール内に足を入れない。漕ぐ時はパドルを振り回さない、特に混み合っている場所は要注意
7	時間は目安です。指導者の判断で調整を。						→	スタートが遅くなった場合は、プログラム時間等の調整を主指導員が判断する